



NO.28 平成 29 年 12 月

発行：三重耳鼻咽喉科

津市観音寺町 445-15

Tel:059-228-0100 Fax:059-228-0133

ホームページ：<http://www.miejibika.com/>携帯サイト：<http://www.miejibika.com/i/>

まず、色々とお知らせから・・・

＜お知らせ①＞

10月30日付けで、医師・莊司邦夫が名誉院長に、医師・坂井田麻祐子が院長にそれぞれ就任いたしました。名誉院長の診察が午前のみとなります。院長の診療時間は従来と変更ございません。引き続き宜しくお願い申し上げます。

＜お知らせ②＞

年末年始は、12月29日～1月4日まで休診とさせていただきます。12月28日は木曜日ですが、午前、午後（17時まで）診療します。

＜お知らせ③＞

平成30年1月より、受付時間が

午前8時～ → 8時30分～

午後2時～ → 2時30分～

に変更となります。御了承ください。

＜ムンプス難聴って？＞

日本耳鼻咽喉科学会が2015年から2年間の調査で、少なくとも336人が「ムンプス難聴」と診断されていたというデータを、本年9月発表しました。全国ニュースにもなり、この病名を耳にされた方もいらっしゃると思います。

ムンプスとは、俗に言う「おたふくかぜ」。子どもの病気としては有名ですし、よくあること、と思いがちですが、この「ムンプス難聴」になると、薬も効果がなく、一生涯、高度～重度の難聴を患うこととなります。

ムンプス難聴は学童期に最も多いとされています。ほとんどが一側性、つまり片側だけの難聴ではありますが、ムンプス難聴の9割が重度の難聴です。重度とは、もう片方の耳が正常に聞こえているとしたら、全く聞こえないくらいの難聴と考えてください。片側が聞こえないと、音の方向性がわかりにくく、会話もしにくくなるため、補聴器装用を必要とする人もいます。約4%の人は両側難聴となり、「人工内耳埋め込み術」を受けた人もあるようです。たかが「おたふくかぜ」で、こんなに大変な思いをしなければならないことがあるのです。

そもそも、昔は乳幼児期に「3種混合（MMR）ワクチン」として接種されていた中に、ムンプスも入っていました。ところが、1993年に無菌性髄膜炎という病気がワクチンのために起こったため、中止されたままになっています。今はMRワクチン（麻疹と風疹）のみが定期接種で、ムンプスは任意接種です。現在、ムンプスワクチンを接種する人は、30～40%とされ、先進国では最も低い水準です。ワクチンを打てば、難聴だけでな



く、不妊症の原因となる卵巣炎や睾丸炎は発症をほぼ抑えられます。日本耳鼻咽喉科学会は、ワクチンを任意から定期接種に、そしてより安全なワクチンの開発を、と行政等に要望しています。

＜薬剤耐性（Antimicrobial Resistance: AMR）＞

WHO（世界保健機構）は、11月13日～19日を、薬剤耐性週間（AMR week）とし、日本では11月をAMR推進月間としています。薬剤耐性、というのは、抗生剤が効かない「細菌」のことを指します。

NHKでも取り上げられ、話題になりましたが、この薬剤耐性を持つ細菌が今のペースでどんどん増えていくと、がんよりも薬剤耐性菌で命を落とす人の方が多くなってしまおうというのです。

そもそも、薬剤耐性菌は、抗生剤の不適切な使用によって生まれてきました。抗生剤の必要のない病気で抗生剤を飲んだり、5日間内服が必要な薬を途中でやめたり、飲み飛ばしたり・・・。また家畜の感染症予防に、えさに抗生剤を混ぜて与えた結果生まれてきた耐性菌もいます。こうした薬剤耐性菌は、効く薬がなくなった場合、我々の生命を脅かす存在になります。新たな抗生剤の開発は、もうあまり期待できない時代になっています。

私たちが出来る対策は、

- ① 咳の予防：「咳」はウイルス感染で、細菌感染ではありません。つまり、抗生剤は効かないばかりか、全く必要がありません。必要のないときに内服すると、体の中に常に住んでいて、皮膚や腸内を守ってくれている菌もやっつけてしまい、かえって有害です。また、耐性菌を作ることにも繋がります。咳にかからないためには、「うがい、手洗い、マスク」。予防が最も



大切です。

- ② 抗生剤の適正使用：急性副鼻腔炎（いわゆる「蓄膿」）や、溶連菌による急性咽頭炎、さらに重症な急性咽頭炎や肺炎などは、細菌感染であり、抗生剤が必要です。1日2回の薬、3回の薬、色々ありますが、減らして飲んだり、途中でやめたりすると、体の中の薬が薄まり、菌がしっかりやっつけられなくなります。中途半端な量の薬では、かえって菌が薬に慣れて、「薬剤耐性」の状態になります。抗生剤は、使うときにはしっかり使って、菌をしっかり叩く！これが基本です。お昼の飲み薬が飲みづらい、保育園のお子さんであっても、必要な場合はお昼もきちんと飲んで頂くようお話をしています。それは、お子さんの病気をきちんと治すためでもあり、耐性菌を作らないためでもあるのです。



- ③ ワクチン接種：子どもの中耳炎予防や高齢者の肺炎予防に役立つ「肺炎球菌ワクチン」や、子どもの髄膜炎予防の「Hib ワクチン」、その他、百日咳や破傷風、ジフテリアなど、ワクチンで予防できる病気もたくさんあります。病気にならないければ、抗生剤を使わなくて済む、使わなければ耐性菌も生まれません。なるべく接種できるワクチンは済ませて、病気を予防しましょう。

厚生労働省委託事業である「AMR 臨床リファレンスセンター」が、分かりやすい耐性菌の動画や、説明をWEB上に掲載しています。抗生剤のこと、この機会に是非知ってみてください。

AMR 臨床リファレンスセンター <http://amr.ncgm.go.jp>